

中学入試に役立つ! 時事問題に強くなる
 月刊 ニュースがわかる 2023 1月号 定価490円 毎日新聞出版

NEWSがわかる

実は身近!? 毒の世界
 なぜ起きた
 群衆なだれ
 中間選挙
 「赤い波」起きます

メタバースの世界

特集2 COP27 途上国の被害に基金

ニュースっておもしろい!
学び深発見 vol.32

筆耕特派では、「メタバースの世界」について学びましたね。ここではメタバースがどんなふうに使われるか、どんな楽しみ方があるのかをハット先生と二輔に尋ねてみましょう。

もう一つの居場所になる!?

「お母さんと二輔に、メタバースで遊んだことあるよ。アバターになって空を飛んだり、踊ったり、テーマパークみたいで面白かったな」

「いいなあ、うちは「メタバースってなにかな?」って言われそう。せっとももうすぐ夏リアルなバーチャル祭典で、友達にも手前も行けるようになる日が来るのね」

「あ、昔の文芸方面のメタバースがあったら行ってみたい!! おじいちゃんがよく遊んでお話を聞かせてくれるんだ。だから、その頃の「太陽の塔」に二輔にのびてみたいな」

みんな詳しいね。昔は何かを体験するにはその場に行くしかなかったけれど、写真が上手で、録音ができるようになって、リアルタイムで音声や映像も送れるようになったよね。今はメタバースを利用することで、よりリアルな体験ができる。技術の発展で経験の幅が広がってきたんだね。先生はメタバースで世界遺産を旅してみたいな。アバターはせっかくだし、女性もいいかも!

「いいと思う!! メタバースって、見た目とか年齢の制約を乗り越えられるきっかけになるよね。私はロボットみたいなアバターにしたけど、いつもと違う自分になって新鮮だったな」

「まさにダイバーシティだね。メタバースってなんだかハロウィンパーティーに似ているのかも知れないね。装いは変えて、のんびり遊ばせようかな〜」

「それ、いつもと同じでしょ。僕は大人のアバターがいい。子どもだと受付がれず、服装化について話し合いたいからさ。あれはSNSロケタになったほうが楽方あるかな?」

イラスト:しばせき としえ

ハット先生の特集
 メタバースって特別な場所ではなく、気軽に公衆に行くように、もう一つの居場所として定着するんじゃないかな。現実世界で競争が激しくても、アバターでなら笑顔できるかもしれないよね。匿名性については「二輔」一途あるから、併走するならおうちの人と二輔がいいね。これからのメタバースをつくるのは、賢のやわらかい温かい世代。みんなが楽しめる世界を期待しているよ!

監修: 日経新聞
 監方: 日経新聞